

大学農場を活用した 附属病院精神神経科 デイケア・リワークプログラムの 企画推進

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター技術室
(T-PIRC技術室)

大宮 秀昭

リワークデイケアの現状

- 復職支援を専門に行う：うつ病患者中心
- 実施施設・利用者：増加傾向
- 内容：座学系、運動系、作業系など様々
- 課題：座学系、作業系はデスクワークが多く、
 - ・ 『仕事』 への抵抗感
 - ・ 疲労感
 - ・ 体力面の不安などの理由で、デスクワーク自体が復帰の妨げとなる可能性



復職率および復職後の継続率が
思うように改善できていない

筑波大学・筑波キャンパス



農業デイケアプログラム

筑波大学附属病院と連携で実施

農業(農作業)  プログラムのひとつとして取り入れた
年間を通じて様々な農作業を実施できるプログラム

「農業デイケアプログラム」では

- ・ 土、作物にふれ合うことで気分転換を図る
- ・ 農作業を通じて・爽快感、達成感、自信の回復を図る
- ・ コミュニケーション能力を高める
(共同作業)



職場復帰の促進

- ・ 体力の向上
- ・ 仕事復帰への自信を高める

プログラム概要

- プログラム開始：2013 年 10 月～
作業療法士および看護師：1～2名
(病院スタッフ)

週2回、2時間程度の農作業を技術職員が指導

- 延べ実施回数および参加患者数：1,079 回、6,421 名(5.95名/回)
(2013.10.1～2026.3.31)

2025 年度：96 回、625 名(6.51名/回)

実施予定の策定

実施依頼：実施月の前月(各部門※)



※露地(畑作、水田、果樹、野菜、畜産)

施設(花卉、野菜)、農業機械

山岳科学センター筑波実験林

提出：日時、実施可能な内容



実施プログラムの策定

スタッフミーティングの実施 (毎月1回)

- ・農場：担当教員、担当技術職員
附属病院：医師、作業療法士、看護師
- ・プログラムの見直し
実施内容、問題点、要望などの検討
- ・前月の振り返り

プログラム内容

- 実施曜日および時間帯が予め決まっている
- 屋外作業は天候の影響によっては実施不可能
- 施設内作業は周年実施可能

葉菜類の水耕栽培を基幹作業とした

- 播種・定植～収穫までの一連の作業体験により
作物を育てる難しさ、喜び、作り上げた達成感を得られる



葉菜類の収穫



水田での稲刈り

主な実施内容

部門	実 施 内 容
施設野菜	葉菜類の水耕栽培：播種、定植、収穫、洗浄
露地野菜	ナス：収穫・撤去、防草シート展張・片付け
	自由圃場区画：春作・秋作(播種～収穫、撤去)
水田	水稻：播種、田植え、稲刈り、脱穀
果樹園	ブルーベリー：収穫、除草、施肥
	ブドウ：袋掛け、袋破り、収穫
	クリ：収穫、施肥
	キウイフルーツ：摘蕾、授粉、フルメット処理、収穫、施肥
	カキ：収穫、施肥
その他	筑波実験林：生垣の刈込み、キノコの植菌、竹の伐倒

葉菜類の水耕栽培



栽培使用養液槽
(1.3m×22m)/レーン

農業ダイケア専用養液槽
・ 2013年度：1レーン



・ 2025年度：3レーン

2013年度当初：水菜、サラダナ、小松菜、フリルレタス中心
年間約 30 作実施（夏季は含まず）

2025年度現在：水菜、青梗菜、小松菜、野沢菜、サンチュなど

夏季（温室内気温 40 度以上）

参加者の労働負荷の面から栽培作業は行わず

作業風景－葉菜類の水耕栽培



播種



定植



収穫

- 活動全体：
 - ・活動当初は参加者同士の会話少ない
 - ・現在では
 - ・播種～収穫までの様々な作業を技術職員の指導が無くても実施
 - ・作業の教え合い
 - ・播種野菜の選定や計画立案
- 作業分担：参加患者間で話し合い

作業風景－作物（水田）



播種



田植え



稲刈り



脱穀

作業風景－山岳科学センター筑波実験林



キノコ：植菌(シイタケ、ナメコなど)

自由圃場区画



ピーマン



ニンジン



ホウレンソウ

- 参加者が作付けを計画し栽培
2015年度～

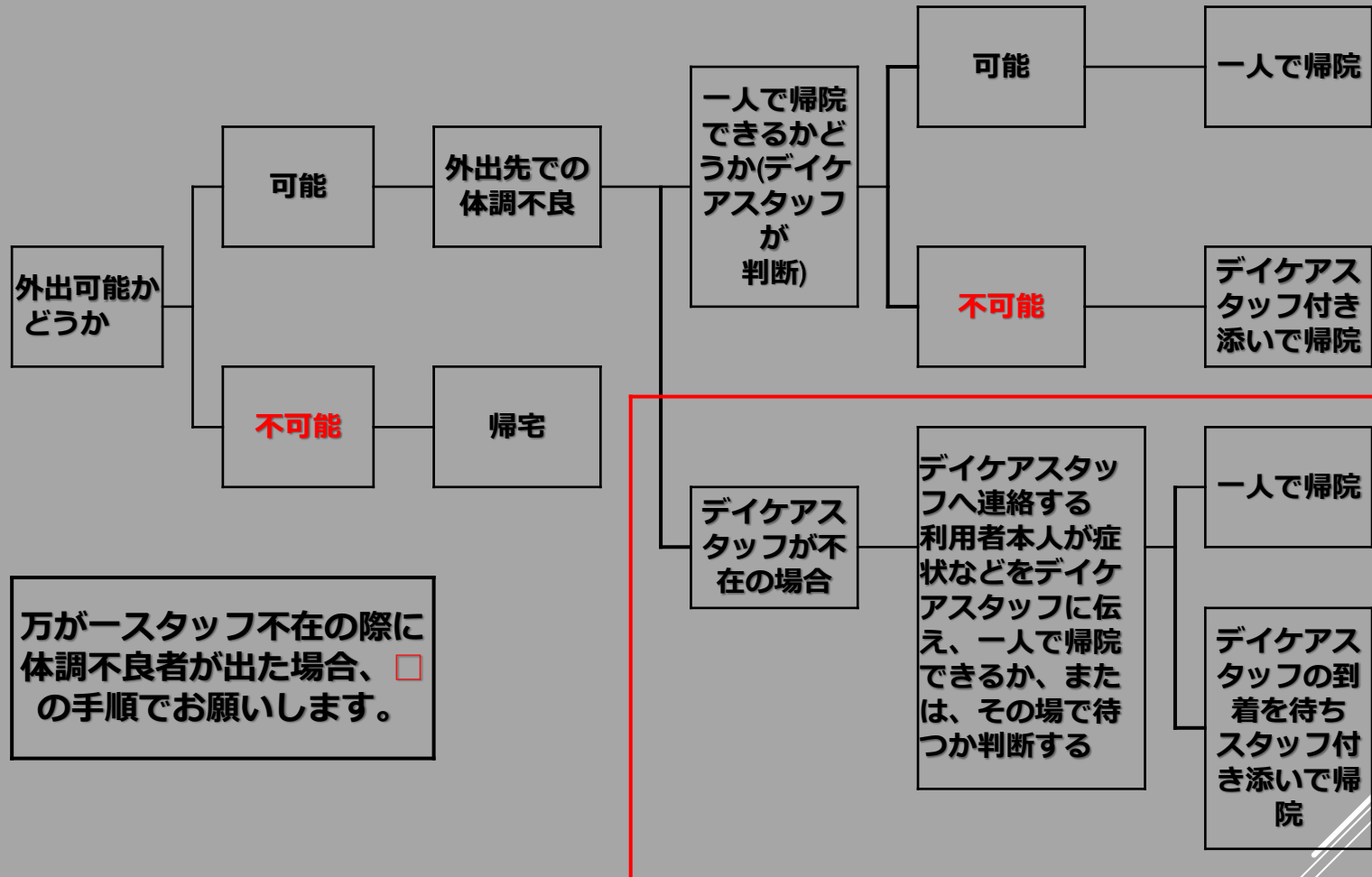
- 栽培面積
2015年度開始：1 a



2025年度現在：2 a

- 無農薬または減農薬で栽培

外出時対応マニュアル



- ・ 病院スタッフと参加者(患者)から見た場合、病院からT-PIRC農場に来ること自体が外出になる

農業デイケアプログラムの効果

●参加者への効果

- ・自己肯定ができ、自己理解が深まった
- ・作業順番や組立てなどを考えることで、仕事への意識の変化が起こった
- ・自分で作物を育てることで、生きることへの実感が得られた

●技術職員が参加者に指導する

- ・農業実習時に農作業に不慣れな学生に対する指導への反映

●栽培計画の関係で使用が難しかった空きスペースの有効活用

農業デイケアプログラムの課題

- 技術職員の人員削減により、毎回指導することが難しくなりつつある
- 実施曜日および時間帯が予め決まっていることから、圃場管理作業(除草など)や収穫作業に課題がみられる
- 患者の参加人数によっては、予定を組んでも完遂できない

謝辞

農業ディケアプログラムの実施にあたり御協力頂いた
多くの皆様に深く感謝致します。

